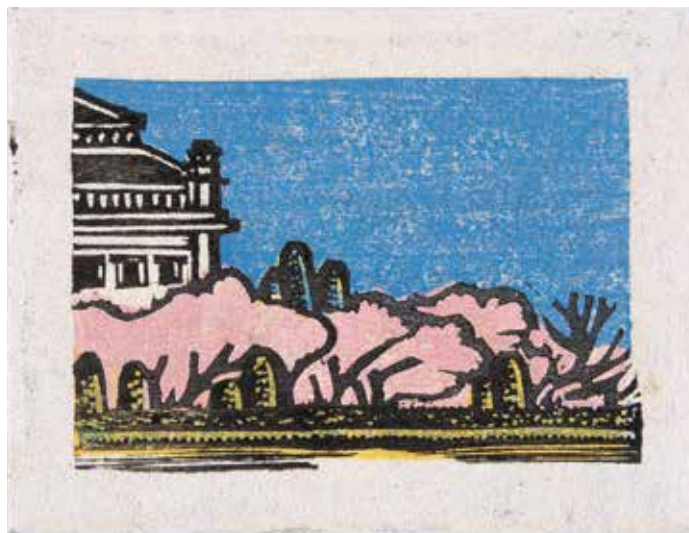


宇都宮美術館
友の会ニュース

アートの森

第20号 2018・3



川上澄生《桜花小景》 1930(昭和5)年 木版、紙 7.0×9.1cm

「これは栃木県県庁の一部です。題して『桜花小景』。私はこの頃こういう小版画を作ってみたく思っているのです」（『版画CLUB』第1年第5号、昭和4年発行。原文を新漢字と現代仮名遣いに変えています）。宇都宮美術館が所蔵する本作は、昭和5年に宇都宮で発行された版画同人誌『村の版画』第11号に収録されたもの。昭和4年の版では空に大きな雲が浮かんでいますが、こちらは快晴の真青な空です。モダンな建物の向こうに大きく空を描くのは、同時期の《新東京百景》シリーズでも澄生がさかんに用いた手法です。平面的に色づけられた空の青と桜のピンクのハーモニーが、春の大気の暖かさや湿り気までも伝えます。制作年代から考えると、ここに描かれている県庁舎は片山東熊によって設計された3代目庁舎です。周囲の桜並木との調和が美しいことで有名でしたが、昭和11年に焼失してしまいました。2年後に建てられた4代目の庁舎が、現在も「昭和館」として残っています。
(主任学芸員 伊藤伸子)

トビダス美術館 美術館からこんにちは！ ～出前、やっています

宇都宮美術館を訪れるお客さまのなかで、学校の授業で団体鑑賞する子どもたちの数は、どのくらいの割合を占めていると思われますか？答えはわずかに3%。

ならばこちらから出かけていこうということで、2005年から宇都宮美術館では学芸員が市内の学校を訪問して授業をする「トビダス美術館」という事業を行っています。訪れる学校の数は、毎年およそ10校。毎年春に実施希望校を募り、先生と学芸員とが顔を合わせて協議を重ね、授業の内容を決めていきます。「作品を見るための“言葉”を鍛えたい」「色彩や構図など絵を描く力を向上させたい」と、先生からの要望はさまざまです。この13年間で小学校1年生から高校3年生まで、幅広い年齢層の子どもたちに会ってきました。

人気があるのは、ピカソやシャガール、クレーといった20世紀美術の立役者たちの生涯と作品を知る授業。

一方通行の講義にならないよう、ワークシートやパズルなど手を動かして考える教材作りにも学芸員は工夫を凝らします。三原色だけで絵を描く授業も好評です。赤青黄色の絵の具からさまざまな色を作り出すデモンストレーションのあと、実際に自分でも描いてみます。子どもたちはモチーフの花や葉っぱとパレットの絵の具をじっくりと見くらべ、慎重に混色していました。また近

年は学芸員だけでなく、地元で活躍する美術家といっしょに学校を訪れる授業を年に1～2回行っています。今年度、派遣校は通算50校目を突破しました。トビダス美術館を体験した高校生



のなかから、美術系大学に進み学芸員を志す人も現れています。地道な活動ですが、美術の世界への小さな窓として、細く長く続けていきたいと考えています。

成人版「トビダス」としての「アート・トーク」事業も行っています。カフェやコミュニティセンターでの学びのひとときに、ひょっとしたら学芸員がお役に立てることがあるかもしれません。どうぞお声がけください。

(主任学芸員 伊藤伸子)

美術講演会／館長講座 演題「ヴィーナスの物語」

10月11日

佐々木館長の講座ということと「ヴィーナスの物語」という題名に興味を持ち参加。分かり易く項目ごとに進んでいく。

①1863年サロンにおける「不道德」②ヴィーナスとはなにものか ③愛を求め愛に関与する ④ヴィーナスを表すときの約束事「持ち物」「形式」⑤ミロのヴィーナス⑥今日のヴィーナスと、多方面から映像と解説により楽しく引き込まれていく。「ヴィーナスとはなにものか」



では神話の世界からエーゲ海に落ちた男性器の泡立ちからアプロディーテが生まれたという説明がショックだった。もとは

エーゲ海各地で信仰されていた地母神の物語が統合されたものと考えられている様だ。

今までヴィーナスとは絶対の美しさを持つ女性だと思っていたが、ヴィーナスの持ち物にバラ・ケシは分かるが、ハトになると平和だけでなく「多産・多情」の意味もあるらしく、キューピッドになるとエロースを表している様だ。泡から生まれたヴィーナスが大きな貝の中から現れているものなどは今まで真珠貝だと思っていたが、ホタテ貝だと初めて知った。ホタテは多産で沢山子孫を残すらしい。昔、サロンの出品作品は裸婦を描くと不道德になるが宗教的表現にするとOKだった様だ。ミロのヴィーナスの発見以来調和のとれたプロポーションは、永遠のあこがれになっている。館長講座は楽しくいつでも聞いていたい時間でした。

(藤沼恵美子)

学芸員室から

灰野文一郎展

宇都宮美術館では、毎年度、宇都宮ゆかりの展覧会を開催していますが、本年度は「灰野文一郎展」を開催中です。灰野文一郎は、那須をはじめとする栃木県の豊かな自然を、素早い筆づかいと個性的な色彩で描いた画家です。宇都宮の自宅アトリエを拠点として、昭和初期より亡くなる1977年まで活躍を続けました。その灰野ですが、インタビュー記事の中で「自分ではもうすっかり栃木県人のつもりですよ」と述べているとおり、実は、栃木県ではなく新潟県出身です。1901年、現在の柏崎市に生まれました。そして、父親が北海道で漁業関係の仕事をしていたため、灰野は小樽で育ち、小樽商業学校に学びました。

灰野が宇都宮に来たのは、明治大学を卒業し一年間の軍隊生活を送った後、1926年のことです。当時、義理の父が宇都宮にいた縁で、灰野は、宇都宮市立宇都宮商業学校の先生となりました。その後灰野は、召集を受け1937年から翌38年に中国大陸へ出征した時期や、1943年から約一年間、故郷の柏崎商業学校の教師となる時期を挟みますが、亡くなるまで宇都宮に在住し描き続けました。

灰野は「那須山につかれて」という随想にこう綴っています。「私は宇都宮に住んで半世紀を迎える。栃木県に住み、栃木県の風景の中から那須を発見したことを画家として本当に幸福だと思っている」。灰野は、この地に那須の広大な風景を発見し描き続けました。雄大な山々や麓に広がる高原、それらを抱く遥かな空、吹き渡る風と光が作り出す雲の表情。灰野はその風景を、他の誰でもない灰野文一郎の絵画として描き残しました。今回の展覧会は、灰野を代表する那須の風景をはじめ、初期の小樽時代や戦前の作品も多数展示し、灰野の画業を時代を追ってご覧いただけます。「灰野の那須山」が生まれるまで、そしてどんな展開をするのか、お楽しみいただけるのではないのでしょうか。

灰野文一郎《秋の那須高原》
1970年代 学校法人 作新学院



(総務学芸課長代理 福島 文靖)

作家紹介

10月8日～11月26日

木彫・テラコッタ(粘土を素焼きしたもの) 辻野富士夫氏



スポーツ、物作り万能の氏は、1981年頃より独学で仏像彫刻の世界に入り、併せて身近な人々をモデルにテラコッタの制作を始め2001年より市民芸術祭で各賞を受賞し、地域で作品展を行っていました。今回「エドワード・ゴッリー」の企画展開催中ということもあり、更に多くの方々にご覧いただくことができました。

友の会掲示板では、決まり事の多い仏像の作品を主にパネル展示。繊細で、美しく穏やかさを感じさせるものであったか、平面展示だったので少々不安は残りましたが、レストラン内では6点のテラコッタを中心とする作品を展示し、それらを充分補うことができました。(小林和子)

美術講演会

7月23日

『いにしえからの伝言 古代文字を通して語る「ぶんごんれいしん文言和心」』

鈴木 學氏

宇都宮美術館講義室において、那須町に在住の、古代文字研究者・講師・書画人の鈴木學先生をお招きして、138名参加のもと美術講演会を開催しました。



鈴木先生から古代文字の歴史についてのお話を聞き、古代文字を表示した資料を具体的に示しながらの詳しい説明をいただいて、古代文字に込められた古代の人々の思いが、現代の私たちの心にも響いてくるようで、大変有意義な時間を過ごすことができました。(亀井研一)



桔梗 (ききょう)

紅葉の彩りも増す10月下旬、静岡方面の旅に妻と初参加。初日、山内一豊の「掛川城」、聖女マグダラのマリヤが印象的だった「ステンドグラス美術館」を見学後、「ねむの木こども美術館」にバスは向かった。森の中の林道をしばらく進むと、芝生に囲まれた傾斜地にどんぐりに似せた屋根をまとった小さな美術館が現れた。そこには子供たちの作品が150点あまり展示されていたが、一つ一つこつこつと描かれた作品群は、私たちがメルヘンの世界に誘い、幼き頃に遠く置き忘れてしまった感情、とでもいったらよいのか、原石のきらめきに似たイメージの世界が広がっていた。

その晩、焼津黒潮温泉の露天湯で見た闇に浮かぶ月の凜とした美しさ。翌朝のご来光と共に、穂を垂れたすすき越しに見える駿河湾と富士の絶景。その日は、庭園画とロダン展の「静岡県立美術館」、旅の光景と重なる「東海道広重美術館」とめぐり、友の会の人達と共に多くの真・善・美に出会えた素敵な2日間の旅でした。(石川実)



百合 (ゆり)



企画展エドワード・ゴッリーがアメリカ人であることに因み、「エドワード・ゴッリーの生涯に奏でられた音楽たち」と題し



て、シンガーソングライターSHIMEさんをお招きし、コンサートを開催いたしました。

カーボーイハットのアメリカンスタイル。ギター演奏と魅力的な歌声。時折ジョークを交えて、アメリカンポップスや懐かしいカントリーミュージックのソロ演奏に会場は手拍子も高まり、迫力あるライブとなりました。(五十嵐てる)

企画展のご案内

- ☆ 灰野文一郎展 1月28日(日)～4月15日(日)
- ☆ サヴィニャック
パリにかけたポスターの魔法 4月29日(日・祝)～6月17日(日)
- ☆ パナソニック汐留ミュージアムコレクション
ジョルジュ・ルオー展 7月1日(日)～8月26日(日)
- ☆ 篠山紀信展 写真力 9月16日(日)～11月4日(日)

会員加入状況

2018年1月31日現在 単位：人

一般会員	ペア会員	賛助個人会員	賛助法人会員	合計
286	230	29	24(口)	569

賛助法人会員

(株)西邑画廊 (株)健康太郎の家 (株)田村緑知苑 (株)酒井建築設計事務所
中央電機通信(株) 環境整備(株) 栃木実業(株) 栃の木地所(株) 晋豊建設(株)
(株)穴吹工務店宇都宮サーパス会 (株)スズテック (有)マルワガラス
三信電工(株) 東亜警備保障(株) 栃木トヨタ自動車(株) 磯部建設(株)
(株)ケイエムシー (学)宇都宮美術学院 宇都宮メディア・アーツ専門学校
(株)栃木銀行 (株)興建 イートランド(株) 宮ビルサービス(株)
ランスタッド(株)宇都宮オフィス (医)北斗会 宇都宮東病院 (入会順)

編集ノート

眠り続けている感覚は目覚める気配はなく、行き交う言葉は頭の中を素通り…。先輩部員の意見交換に刺激を受け、次第に「知る」ことの楽しさを覚えました。
美術館へつながらる階段に息切れしながら新緑の風に背中を追われ、今日も扉を開きます。(福永昌子)

<アートの森> 第20号 (通巻43号)

発行日 2018年3月30日
発行 宇都宮美術館友の会(宇都宮美術館内)
〒320-0004 宇都宮市長岡町1077
☎028-643-0100